

## 深圳市、シェア自転車の放置対策を実施 ～広東省で初めて電子管理システムを導入～

中国でシェア自転車が始めて2年、登録ユーザーは4億人に達した。一方、使用した自転車の放置などの社会問題が発生しており、早急な対策が必要だ。広東省深圳市は2月の春節休暇から、同省初となるシェア自転車放置防止用の電子管理システムを導入した。

### 200都市に2,300万台のシェア自転車

中国情報通信研究院とofo(シェア自転車企業)が共同発表した「2017年シェア自転車経済社会影響報告」によると、2017年末現在、中国の200都市に約2,300万台のシェア自転車があり、主に短距離移動用に使用されている。実際、シェア自転車の普及により延べ4億時間分の渋滞が減ったほか、ガソリンの使用量が約141万トン、二酸化炭素(CO2)の排出量が約422万トン、微小粒子状物質(PM2.5)の排出量が約322万トン減少したとされる。

一方、シェア自転車の放置問題は深刻だ。2017年8月には、中国政府の交通運輸部など10部門が「インターネット自転車レンタル発展の奨励および規範化に関する指導意見」を公表し、自転車電子管理システム利用の提案など、放置対策強化を訴えた。

### チップとGPSを利用したシステム

こうした中、深圳市では2016年10月にシェア自転車が導入されて以来、計89万台のシェア自転車が投入されている(2018年1月20日付深圳商報)。シェア自転車の登録ユーザー数は2,200万人、1日の平均利用人数は延べ約543万人に達しており、深刻化する放置に対応するため、2月の春節休暇から広東省では初めて「電子管理システム」を導入した。

電子管理システムはチップとGPSを利用して、自転車の位置確認、移動範囲の把握、駐輪場所の監督・管理を行う。システム上の地図では、駐輪可能なエリアは「P」マークで、駐輪禁止のエリアは灰色で示されている。ユーザーが駐輪禁止エリアに自転車を止めて鍵を掛けた場合、システムが自動的にユーザーの携帯にショートメッセージを送り、近くの駐輪可能なエリアへ案内する。

同システムの導入はまず、ユーザーに駐輪マナーを守ってもらうのが目的だが、将来的にはユーザーの信用度管理シス

テムと連動させる計画だ。駐輪マナーを守った際にはクーポン券が発券され、放置をするとユーザーの信用点数が引かれ、一定の点数を下回るとレンタル費用を高くしたり、レンタルしない、といった罰則措置が取られるという。

### スマートロック導入の動きも

一方で、シェア自転車は都市住民のライフスタイルを変えると同時に、モノのインターネット(IoT)、人工知能(AI)やビッグデータ分野などでのイノベーションにも貢献している。鍵を開ける時間を短縮するため、従来の機械式鍵の代わりに、NB-IoT(注)技術を採用したスマートロックを導入する動きがある。機械式鍵は、シェア自転車の後輪に付けているQRコードをスマートフォンで読み取り、パスワードを入力して開けるが、スマートロックは、QRコードをスマホで読み取るだけで開錠できる。

また、シェア自転車の利用率を向上させるため、AIやビッグデータによるデータ分析結果に基づき、日にちや時間帯に合わせてシェア自転車の適切な配置も可能になるなど、シェア自転車をめぐる利便性の向上に注目が集まる。

(注)NB-IoTとは、モバイル通信技術「LTE方式」のうちのIoT機器向けの規格のこと。省電力性などがメリットとされている。

【出所】ジェトロ通商弘報 2018年3月27日付記事の本誌掲載用に編集

本稿は閲覧される方のご判断・責任においてご利用下さい。可能な限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、本稿で提供した内容に関連して、利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、会員企業サポート室及びジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。